

お札にはどのくらいの数の色が使われているのですか？

— お札の印刷に使われる色の数 —

皆 さんは、銀行券には一体どのくらいの数の色が使われているか、知っていますか？

お 札の印刷は色の組み合わせにより、①お札を美しく見せたり、②偽造しにくくしたり、③券種ごとに基調色を設けることで券種の区別をしやすいとする、といった効果があります。日本銀行券は、時代の移り変わりとともに多色刷りとなってきており、現行券では、表面に13～15色、裏面に7色用いられています。券種ごとの刷色数は右表のとおりです。

な お、微かな色合いを特徴とする日本のお札は、一見しただけでは何色使われているか判別しにくいかもしれません。どの部分に何色使われているか、「一万円券」を例にとって刷色内訳を右に示しますので、一度じっくりとご覧下さい。

▼銀行券の刷色数

| | 表面 | 裏面 |
|------|----|----|
| 一万円券 | 14 | 7 |
| 五千円券 | 14 | 7 |
| 二千円券 | 15 | 7 |
| 千円券 | 13 | 7 |

▼一万円券の刷色数内訳

| | |
|-----|--------------------------------------------|
| 表 面 | 地模様：10色 肖像、文字、唐草模様等：2色 印章と記番号：それぞれ1色 |
| 裏 面 | 地模様：5色 平等院の鳳凰像、文字等：1色 印章：1色 |

コラム

使われている色の数が最も少ないお札は？

ちなみに、わが国で発行されたお札の中で最も刷色数の少ないお札は、1927年（昭和2年）の金融恐慌時に発行された「乙二百円券」です。今では到底考えられないことですが、この「乙二百円券」は極めて短期間に製造されたこともあって、表面の印刷が2色、裏面は印刷なしの無地という状態でした。



乙二百円券（表）



同（裏）